

改善指示に対して 講ずる措置の進捗状況

2025年8月26日

北海道旅客鉄道株式会社

改善指示に対して講ずる措置の進捗状況

6月30日報告書提出以降の当社の取組み状況

※ 8月26日時点

改善報告書の取組み		2025年度									概算費用 (億円)
		2Q			3Q			4Q			
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
安全 監査室	内部監査	<p>○7月中、直近に発生した3事象の協会社ヒアリング</p> <p>北見・帯広・釧路 → 追分・名寄 → 函館 → 駅系統</p> <p>岩見沢・旭川 → 札幌・室蘭</p> <p>全10保線所、34保線管理室へ年内に監査実施</p> <p>※運輸系統、車両系統、電気系統は次年度7月までに順次実施</p>									
		現場点呼アプリ	開発体制検討	●開発体制決定	●要件定義・仕様確定	●開発・試験開始(3か月)			試行開始	工務現業機関へ配備完了	0.3
ハード 対策	ウェアラブルカメラ+GPS	仕様検討	●仕様確定・発注		●効果検証		一部現場で試行	現業機関へ配備完了		0.2	
	車両前頭カメラ	●※1現車確認	●※1設置方法決定・材料発注	●※2現車確認	●※2材料発注		●※1材料納入・施工開始	●※2設置方法決定		2	
		※1:特急車両 ※2:札幌圏電車		※1施工後順次使用開始				完了			
	運転支援アプリ(機能拡充)	仕様検討	●仕様確定、設計・製造	●単体テスト	●結合テスト			運転士周知後順次使用開始	完了	0.1	
コンプライアンス教育	保線安全の日			○9/19実施	※「お客様の安全」とともに「従事する社員の安全」の視点をテーマに実施						
	職場内講習会			○9月指導文書発出、年度内に各職場で実施							
	役員・管理者等対象の研修	○7月11日(新任グループリーダー研修)	○8月20日、29日(新任管理者研修)		○10月3日外部講師による役員等対象の研修を実施						

車両タイプ	両数	設置時期
特急気動車	63	2025年9月～
特急電車	28	2026年3月
札幌圏電車	122	2026年4月～ 2027年9月
その他車両	152	2026年10月～ 2028年3月

現場点呼アプリ

資料 1

1. 目的

- ①現場点呼簿の作成や記入において、手書き等による現場社員の負担軽減を図る。
- ②現地での現場点呼状況（実施日時・実施場所等）に関する記録の不変性を確保する。

2. 機能

- ①作業責任者が所持する端末で、A・B・C点呼に必要な項目を入力（又は選択）することが出来る。（項目により事前の入力も可）
- ②点呼内容及び点呼を実施した「日時」「位置情報」等は、現地から伝送、サーバに保存され、管理者等が任意に確認できる。

【現場点呼簿】

- A点呼：作業内容、役割分担、保安体制、携行品等
- B点呼：保安体制再確認、線路立入前の3つの確認（運転状況、次列車相互確認、保安体制確立）
- C点呼：ヒヤリハットや忘れ物の有無を確認

現場点呼簿 作業等の責任者 菅原

施工日	令和 7 年 4 月 2 日 (水曜日) 13:30 ~ 16:00			
作業位置	【線名】函館線 【線別】上下線			
作業内容	【区間】深川~旭川間 【キロ程】415k000m ~ 422k000m			
手続等	橋梁検査(2箇所) 近文~旭川間 422k000mから入線、419k000mを検査した後、416k000mを検査。415k000mから退出。			高所作業 <input checked="" type="checkbox"/> 無線機 No.1 <input checked="" type="checkbox"/>
業務分担	【作業等の責任者】菅原 (携帯No.1)	【無線機No.1】		
	【線閉責任者】	【携帯No.】	【無線機No.】	
	【列車見張員】上口 (携帯No.2)	【無線機No.2】		
	【列車見張員】吉村 (携帯No.3)	【無線機No.3】		
保安体制	線閉・携帯用LED・可搬式LED・列車接近警報装置・踏切警報器 LED取扱者() 建橋位置()m・()K ()m 列車見張員立寄位置()414 K 000 m・()425 K 000 m 待避箇所() 避車、施工基面 ()m (待避禁止箇所() ()無)418k970m~419000mの橋梁、待避禁止			
携行品の確認	作業等の責任者 腕巻見張りダイヤ (線閉記録簿) 線内作業計画書 携帯電話 時計 (無線機) 運転状況確認簿 タブレット端末			
	線閉責任者 腕巻見張りダイヤ (線閉記録簿) 携帯電話 時計 無線機 構内確認(駅構内)			
	列車見張員 腕巻見張りダイヤ (線閉記録簿) 時計 携帯用LED 可搬式LED 合図旗(赤・緑色紙) 呼び笛 マガホン 無線機 軌道短絡器 携帯式列車接近警報装置(必要により)			
駅構内作業の有無	提出の有無 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>			
B点呼	保安体制再確認 <input checked="" type="checkbox"/>	作業変更 <input checked="" type="checkbox"/> 無	無線機所持 <input checked="" type="checkbox"/>	合図方法 <input checked="" type="checkbox"/> メガホン <input type="checkbox"/> 無線機 <input checked="" type="checkbox"/>
線路立入り前の確認	線路立ち入りの都度、全員で保安体制を確認する			線路禁止用器具の着用及び使用の指示・伝達 <input checked="" type="checkbox"/>
確認事項	① 駅長(輸送指令員)と「現地」で運行状況の確認 <input checked="" type="checkbox"/>			
	② 「運行状況の伝達」と「次列車の相互確認」 <input checked="" type="checkbox"/>			
	③ 「保安体制」が確立したことの確認 <input checked="" type="checkbox"/>			
合言葉の唱和	上下線 ○時○○分 800mLED ヽヨシ!			
C点呼	ヒヤリハット等			
	作業変更内容	打合せ時間	作業責任者	列車見張員 助役等への報告時間

A点呼
(出発前点呼)

B点呼
(現場点呼)

C点呼
(終礼点呼)

ウェアラブルカメラ及びGPSの導入（工務系統・電気系統）

資料2

※駅系統は現在機種選定中

1. 導入目的

- ・ 事象発生時などに客観的な事実を正確に把握し、原因究明や再発防止に役立てる。

2. 構成機器

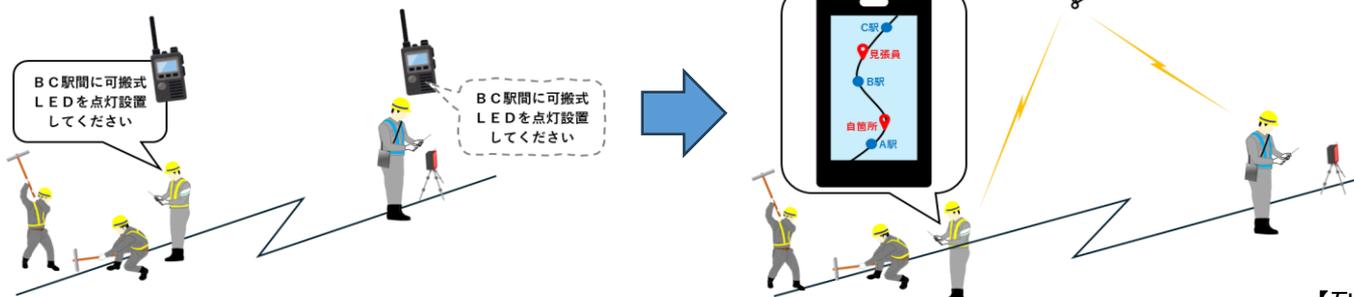
- ・ クラウド型ウェアラブルカメラとし、スマートフォンを通じて撮影された動画データが自動的にクラウドサーバーに保存され、GPSによる列車見張員の配置位置を確認する機能を同時に実装することが出来る製品を採用。

3. 運用方法

- ・ 全ての列車見張員（中継・隣接線列車見張員含む）へのカメラ装着を基本とする。
- ・ 録画は、線路立入前から線路退出後までとする。



【GPSによる列車見張員配置位置の確認】



【列車見張員へのカメラ装着】

車両前頭カメラ

資料3

【設置目的】

- 発生した事象に対して事実の正確な把握に活用する他、踏切事故、人身事故、車両の衝撃痕を発見した場合や地上設備の不具合が発生した場合の原因調査等へ活用する。



【導入するカメラの設置状況】



【カメラの映像】

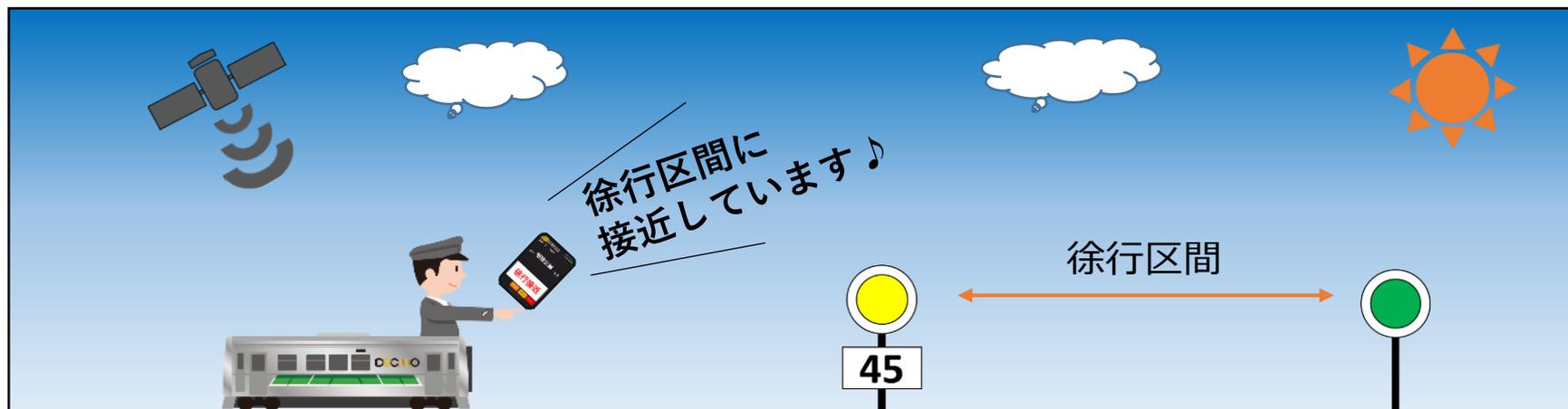
運転支援アプリとは

資料 4

- ・ 運転士が徐行区間の速度超過することを防止するため、安全対策として作られたアプリ。
- ・ GPSを活用し、列車位置に応じて運転士が携帯するタブレットで注意喚起を行い画面と音声で運転士を支援する。
- ・ 徐行区間のほか、停車駅や注意が必要な箇所に対しても支援を行う。



【タブレットの運転席設置状況】



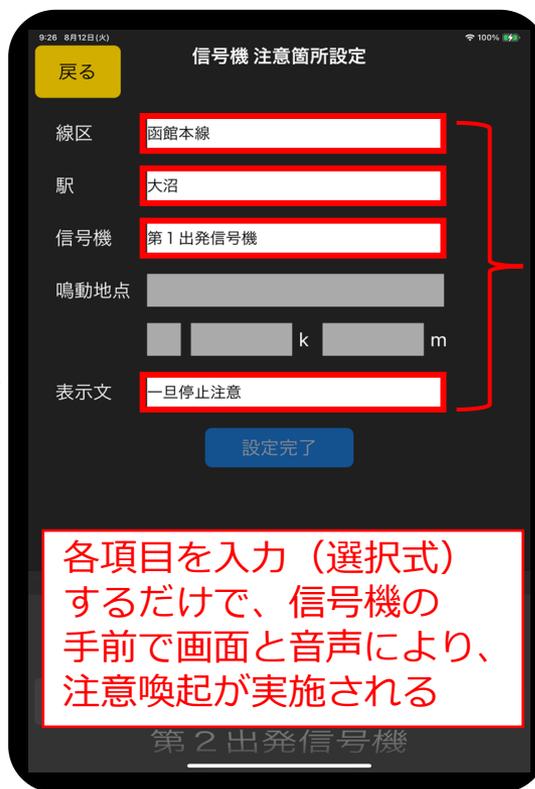
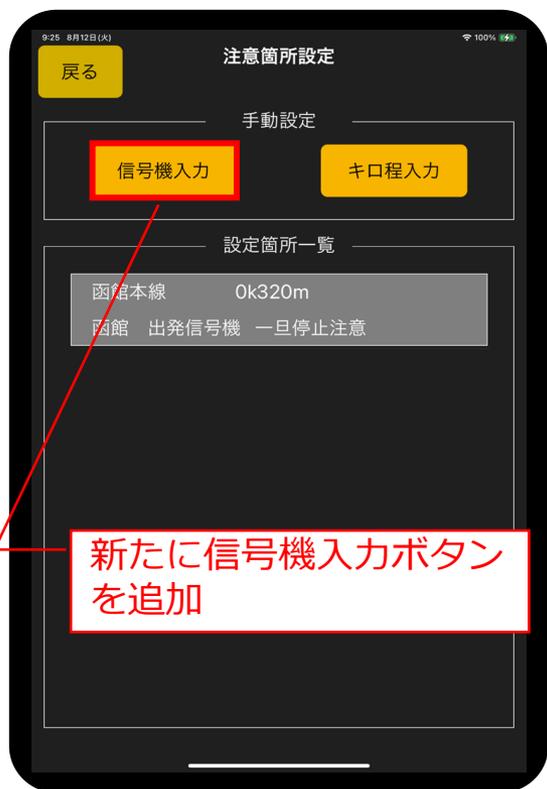
運転支援アプリの機能拡充

資料 4

【開発目的】

- ・ A T S 地上子の故障など、信号機の手前で一旦停止が必要な取扱いが発生した場合に、信号機を選択するだけで注意喚起が実施されるように運転支援アプリの機能を拡充し、運転士のヒューマンエラーに伴う非常ブレーキの動作を防止する

【注意喚起機能のイメージ】



ピピピ！注意箇所です！

